



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2001. 8 月号



博物館の入館者が二百万人に達しました

平塚市博物館は昭和51年5月1日に開館して以来、200万人目の入館者を迎え、7月26日にその記念式典が行われました。めでたい200万人目の入館者は、市立金田小学校5年生・森山貴允君で、夏休みの勉強に初めて博物館を訪れたとのこと。前後の方も含め三名の方に吉野稜威雄市長より記念証と記念品が贈呈されました。

開館以来、市民に親しまれる博物館を目指し、特別展や普及活動などを活発に行ってきました。200万という数字は、市民の皆さまとともに歩んできた日々の積み重ねであります。しかし、ピーク時には年間10万を超えた入館者も近年は減少傾向にあります。これを機会に、よりいっそう魅力ある博物館づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

夏期特別展「相武国の古墳」の見どころ

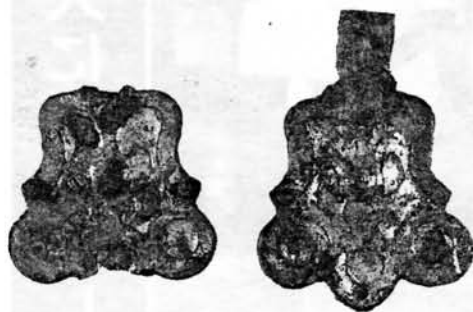
「相武国^{さむのくに}」とは奈良時代以前の国名で、相模川流域の範囲をいいます。その他に、酒匂川流域を範囲とする「師長国^{しながのくに}」と、文献には国名が出ていませんが、鎌倉から三浦半島を範囲とする「鎌倉別^{かまくらのわけ}」の三つの勢力があったと考えられています。この三つの勢力が合わさって、のちに「相模国^{さがみのくに}」が成立します。この国名がどこまで遡ることができるかははっきりしていませんが、相武国の土台は古墳時代前期にあるようです。つまり、弥生時代後期前半ではかなり地域性の強い土器が各地域に見られたのに対し、後半になると地域性がなくなり、一つにまとまっていくようですが土器の形や調整技法から窺い知ることができます。このことは、相模川流域に後の相武国となる集落のまとまりが形成されたことを示しているのではないかと考えます。

今回、約50遺跡・約500点の資料を展示しました。会場では古墳時代の各時期が分かるように、赤色は前期、紺色は中期、後期は灰色の展示台で示しました。ここで、展示品の見どころを三つ紹介します。

①三角縁神獸鏡^{さんかくえんしんじゅうきよう} 前期古墳の中で注目したいのは、真土大塚山古墳です。この古墳からは「三角縁四神二獸鏡」が出土しています。鏡はヤマト政権が地方の首長に威信財^{いしんざい}として配布したものです。相模の他の古墳からは今のところ出土していませんので、ヤマト政権とより強く結ばれたのが真土大塚山古墳といえます。しかし、問題があります。周辺には古墳を造り出すような大きな集落は発見されていません。しかも、砂丘に立地していますので生産性が高い地域とは考えられません。なぜ、このような場所に造られたのでしょうか。他の古墳は台地の縁辺で、周辺では集落が発見されていることから、大塚山古墳の場合、何か他の理由があつて造られたと考えます。一つの考え方として、真土大塚山古墳は相模川下流域に位置し、しかも対岸へ渡るのにちょうど良い場所にあります。また、相模湾に近い点が、他の古墳と大きく異なります。この二点を重視した場合、ヤマト政権が東国進出するのに確保したい場所であつたのではないかと推理します。つまり、東国支配をするために、先ず道を確保し、そのルート上に古墳が造られたのではないのでしょうか。道を支配することが為政者の最大の課題であつたと考えます。当然、海上支配というまでもありません。



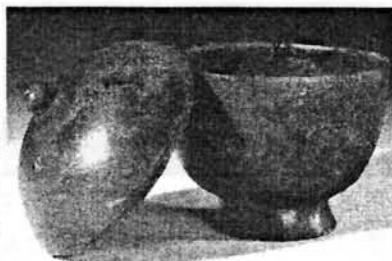
三角縁四神二獸鏡（平塚市真土大塚山古墳）



金銅装鏡板（伊勢原市らちめん古墳）

③銅鏡 後期の後半になると、相武国では仏教的な色彩が強い、銅鏡^{どうきやう}が出土しています。この背景として、ヤマト政権（蘇我氏一族を中心とした勢力）は古墳に代わるものとして、畿内を中心に寺院の造営を推進し、寺院が権力を象徴するようになります。その影響を受けて中央政権から賜った銅鏡の出土と考えます。その後、終末期になると師長国、相武国、鎌倉別を通る東海道沿いに寺院が造られるようになります。同時に、古墳の造営は衰退し、7世紀末頃になると古墳・横穴墓は造られなくなり、やがて相模国が成立します。この終末期は相武国から相模国への過渡期にあたります。

②金銅製の大刀・馬具^{たき} 後期になると、ヤマト政権は前方後円墳体制から、より実質的な権威を示す金銅製で造られた環頭大刀や馬具^{かんとうたち}を首長に与えるようになります。この段階で各国々はヤマト政権下に下り、その国の首長は職階制に基づいた地域の支配者となります。従来の地域首長者から、ヤマト政権により制限された首長に変化し始めます。ところで、相武国の首長、つまり相武国造の中心部は相模川流域のどの場所にあつたのでしょうか。その場所を解くには威信財が豊富に出土する場所が考えられます。結論として、伊勢原市三ノ宮比々多神社周辺が最有力地と考えます。らちめん古墳・登尾山古墳からの出土品が証明するものと考えます。それ意外のところは現段階では考えられません。



有蓋脚付銅鏡（伊勢原市登尾山古墳）

◎特別展記念講演会・シンポジウム

講演会「ヤマト政権と相武国」 講師：望月幹夫氏

シンポジウム「相武国の古墳」パネリスト：望月幹夫 荒井秀規 西川修一 高橋和 立花実 田尾誠敏 明石新の各氏

日時：8月4日（土）10時～16時 会場：中央公民館小ホール 参加：自由 定員：250名

赤く燃える星

この夏、南の空で赤く明るく輝く星は火星です。さそり座にある1等星アンタレスは、その火星の右で、同じような色にまたたいています。火星が赤いのはその地表面の色のせいですが、アンタレスのような恒星が赤く輝くのは、その星の表面温度が低いからです。

ところで、夜空に星を見上げた時、あの星たちの間の暗やみには何があるのだらうと思ったことはありませんか？

宇宙空間は「真空」で、何もない、と思われがちです。しかし、無数の星が集まる銀河系の星たちの間は、「真空」でありながら、それでもなお、とても薄いガスがそこを満たしているのです。そのおもな成分は水素です。

宇宙に漂う水素ガスは、時として濃い部分を作り、ある時は雲のように集まって、星雲として姿を見せてくれることがあります。そしてもっと小さく濃く集中して、中心部で水素が核融合という現象を起こし、光り輝くようになったものが恒星なのです。星たちも、そのまわりをつつむ薄いガスと同じ水素でできているのです。

星はいわば自分をかたちづくる水素を、光り輝くための燃料にしているわけです。そして、何千万年、時には何百億年と勝手に燃えつづけます。ところが、そんな星たちにも、ゴミ問題が発生します。水素の核融合から作られたヘリウムという物質は、星の中心部に堆積して、星の中に老廃物の芯を作ってしまうのです。このような状態になると、星の内部ではそれまでのバランスがくずれて、芯が重みを増して縮んで行くのとは反対に、外の水素の部分は大きく薄まってふくらんでしまうことになるのです。

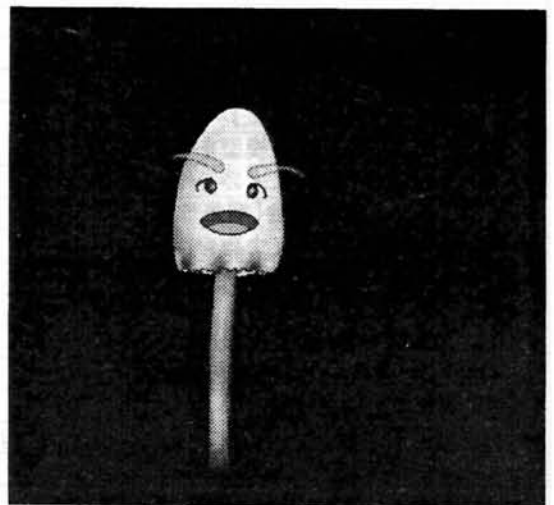
さそり座のアンタレスのような赤色巨星は、こうして進化した、星の一生の中では晩期の星といえる種類です。これらの星は、その後どのような運命をたどるのでしょうか。そして実はその星たちの最期が、わたしたちの地球という惑星の誕生にも、大きく関わっているのです。

この番組は、ヒトヨタケというキノコのこどもが、森の生き物たちにアンタレスのことを質問をして行くうちに、太陽系の誕生の前に起きた、わたしたちの存在に関わる宇宙のドラマに気づいて行くストーリーです。

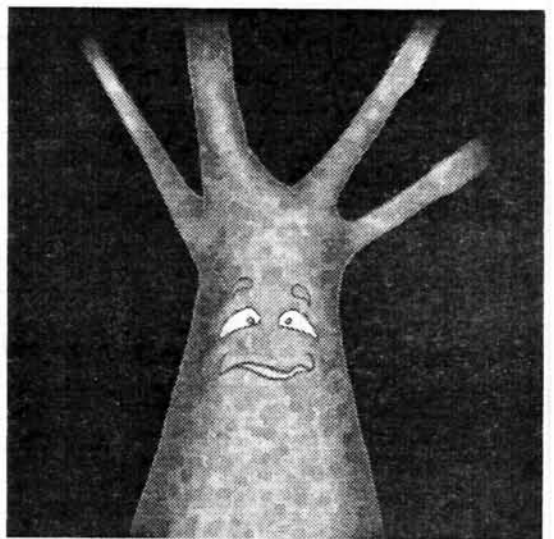
投影期間：9月2日（日）まで 定員：86名

投影日：水・木・土・日曜日 11時 14時（途中入場はできません）

観覧料：大人100円 中学生以下無料（博物館受付で観覧券をもらってください）



ヒトヨタケ

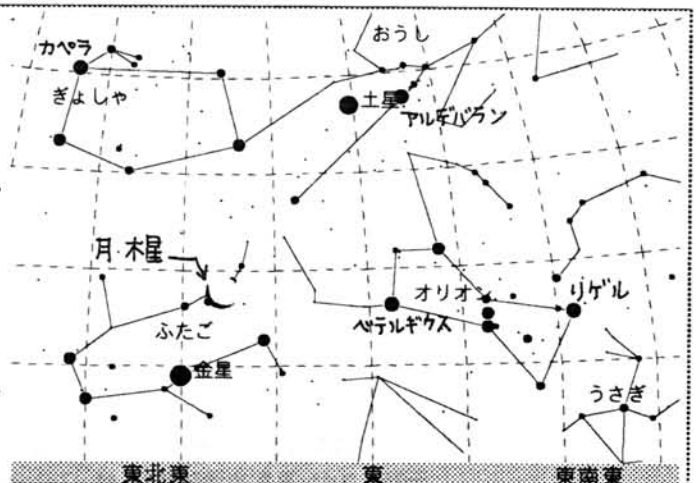


森の歴史と宇宙を語るケヤキの老木

木星食を見よう

8月16日明け方、木星食が見られます。月齢26と細めの月なので、肉眼でもじゅうぶんおもしろい眺めになるはずですが、木星は午前3時ころ、月の明るい側に隠れ、空が明るくなり始めた4時ころ、暗い側から現れます。望遠鏡では、木星を回る四つの衛星が、木星とともに次々に月のふちに飲み込まれて行くさまも眺めてみるとよいでしょう。

当日、月の出は1時16分（東京）です。食になるころ、月の高度はまだ20° 足らずなので、観察は東の空の開けた場所を選んでください。



図：食直前の東の空

博物館カレンダー

＜平成13年 8月＞

2	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
3	金	古文書講読会	講 堂
		プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
4	土	◎ 特別展記念シンポジウム「相武国の古墳」	公民館
5	日	○ 体験学習「地形模型を作ろう」	科学室
		◎ 星を見る会「火星を見よう」	屋 上
		天体観察会「火星」	屋 上
7	火	○ 体験学習「地形模型を作ろう」	科学室
8	水	○ 体験学習「縄文土器を作ろう」	科学室
9	木	石仏を調べる会「編集作業」	特研究室
		○ 体験学習「縄文土器を作ろう」	科学室
		プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
10	金	古文書講読会	講 堂
		○ 体験学習「縄文土器を作ろう」	科学室
		プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
11	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
12	日	○ 特別展記念行事「相武国の古墳を歩く1」	伊勢原市
		民俗探訪会「研究発表会」	講 堂
		◎ 星を見る会「夏の星空を見よう」	屋 上
		天体観察会「スターウォッチング調査」	屋 上
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
14	火	○ こども観察クラブ「セミの観察」	野 外
15	水	裏打ちの会	科学室
		○ こども観察クラブ「セミの観察」	野 外
		天体観察会「スターウォッチング調査」	屋 上
16	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
17	金	☆ 寄贈品コーナー「湘南新道関連遺跡展」(～9月16日)	展示室
		古文書講読会	講 堂
18	土	◎ 湘南新道関連遺跡スライド上映会	講 堂
		○ こども観察会「8月の自然」	野 外
19	日	○ 特別展記念行事「相武国の古墳を歩く2」	海老名市
		◎ ろばたばなし	展示室
		相模川の生き立ちを探る会「三島の湧水」	三島市
		天体観察会「スターウォッチングまとめ」	屋 上
22	水	○ 体験学習「縄文土器を作ろう」	科学室
		◎ 夏休み自由研究相談会	科学室
23	木	石仏を調べる会「編集作業」	特研究室
24	金	古文書講読会	講 堂
25	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
		地質調査会	科学室
26	日	古代遺跡を探る会「土器作り」	科学室

＜平成13年 9月＞

1	土	○ みんなで調べよう「身近な林調べ」	科学室
5	水	民俗探訪分科会	田 村
6	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
7	金	古文書講読会	講 堂
8	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	野 外
		☆ プラネタリウム「フリートークプログラム」(～10月7日)	プラネ室
		天体観察会「流星群観察法」	屋 上
9	日	○ 自然観察会「鳴く虫」	相模川
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
12	水	博物館実習(～20日)	博物館
13	木	石仏を調べる会「編集作業」	特研究室
14	金	古文書講読会	講 堂
15	土	民俗探訪会「日枝神社祭礼」	中 原
16	日	◎ ろばたばなし	展示室
		地質調査会	科学室
19	水	民俗探訪分科会	田 村
		裏打ちの会	科学室
20	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
21	金	☆ 寄贈品コーナー「博物館実習生の展示」(～10月30日)	展示室
		古文書講読会	講 堂
22	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
23	日	古代遺跡を探る会「分布調査」	土 沢
27	木	石仏を調べる会「編集作業」	特研究室
28	金	古文書講読会	講 堂
29	土	プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
30	日	相模川の生き立ちを探る会「砥石とマンガン鉱」	秦野市

☆：展示（無料）プラネタリウム（観覧料）

○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

＜展示・プラネタリウム＞

☆夏期特別展「相武国の古墳」：8月31日（金）まで

☆寄贈品コーナー

「湘南新道関連遺跡-平成12年度発掘調査出品展-」

県内で初出土した平安時代の小型金銅仏などを展示します。

期 間：8月17日（金）～9月15日（土）

◎スライド上映会（発掘作業の様子などを紹介します）

日 時：8月18日（土） 10時～11時30分

会 場：博物館講堂 参 加：自由

☆プラネタリウム「赤く燃える星」

期 間：9月2日（日）まで

投影日：水・木・土・日曜日の11時と14時

＜ 参 加 者 募 集 ＞

○子供観察会「霧降の滝を訪ねて」

霧降の滝とその上流の沢を歩き、動植物を観察します。

日 時：8月18日（土） 8時～12時

場 所：下吉沢

申 込：往復はがきに住所・氏名・学年・電話番号を記入し、

8月7日（火）までに博物館へ申し込む

定 員：30名（小・中学生および保護者に限る）

○自然観察会「鳴く虫」

夜の川原でエンマコオロギやカンタンノ声を聞いたり、コウモリを観察したりします。

日 時：9月9日（日） 17時～20時

場 所：相模川（馬入水辺の楽校）

申 込：往復はがきに住所・氏名・学年・電話番号を記入し、

8月31日（金）までに博物館へ申し込む

定 員：30名

◎星を見る会

接近中の火星が観察のチャンス。ぜひ望遠鏡で眺めましょう。

日 時：8月5日（日）・8月12日（日） 19時～20時30分

場 所：博物館科学教室・屋上

参 加：自由（雨天・曇天時中止）

◎漂着物を拾う会

日 時：8月11日（土） 9時30分～11時

場 所：平塚虹ヶ浜海岸

参 加：自由（初めての方は往復はがきで申し込む）

◎ろばたばなし

日 時：8月19日（日） ①13時30分～ ②15時～

場 所：展示室民家

参 加：自由

◎夏休み自由研究相談会

自由研究のまとめ方など、小中学生からの相談をお待ちします。

日 時：8月22日（水） 9時～12時

場 所：科学教室

参 加：自由

あなたと博物館 26巻 5号 通算297号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>